

テモテへの手紙一

テモテへの手紙一は、偽りの教えに向き合い、礼拝と指導、弱い立場の人への配慮、富の扱い、託された教えを守る務めを整えるようテモテに指示します。



解釈にもとづく再構成。この場面は受取人の状況を描いた再構成です。パウロを描いたり、提案されている使徒言行録後の旅程を記録された旅として示したりしてはいません。

年代・確度：推定される

紀元62～64年頃

手紙は執筆都市を特定せず、使徒言行録は想定される釈放やその後の旅程を語りません。パウロ本人による著作とする別の年代体系では、成立を紀元65年近くに置きます。

場所・確度：推定される

手紙は、パウロがテモテをエフェソに残してマケドニアへ向かったと示します。ここに示す伝統的な使徒言行録後の再構成は西暦62～64年ごろに置きます。手紙は執筆都市を特定せず、使徒言行録は想定される釈放やその後の旅程を語りません。パウロ本人による著作とする別の年代体系では、成立を紀元65年近くに置きます。

前後の出来事

- ① 紀元60～62年頃 フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。
・推定される
- ② 紀元60～62年頃 エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。
・推定される
- ③ 紀元60～62年頃 フィリビの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。
・推定される
- ④ 紀元62～64年頃 テモテへの手紙一とテトスへの手紙をパウロの直接の書簡と読む伝統的な見方では、両書の状況は使徒言行録後の働きーテモテがエフェソに、テトスがクレタ島にあり、ニコポリスで越冬する計画ーを示唆する。使徒言行録は釈放も旅程も語らず、ニコポリスは執筆地として示されていない。
・推定される
- ⑤ 紀元62～64年頃 テモテへの手紙一はテモテをエフェソに置くが、パウロによる直接の著作と、提案される使徒言行録後の旅程は議論されている。
・推定される
- ⑥ 紀元62～64年頃 テトスへの手紙はテトスをクレタ島に置き、長老を任命するよう求めるが、パウロによる直接の著作と、提案される使徒言行録後の旅程は議論されている。
・推定される

本文から確かめられること

本文で確かめられる

テモテへの手紙一は、偽りの教えに向き合い、礼拝と指導、弱い立場の人への配慮、富の扱い、託された教えを守る務めを整えるようテモテに指示します。

直接の受取人はテモテであり、会衆全体へ宛てた手紙ではなく、エフェソの信徒の間で仕える人物として描かれていません。

10分で紹介するための流れ

1. テモテへの手紙一は、偽りの教えに向き合い、礼拝と指導、弱い立場の人への配慮、富の扱い、託された教えを守る務めを整えるようテモテに指示します。
2. 伝統的年表はテモテへの手紙一をローマでの自宅軟禁の後、テトスへの手紙の近く、テモテへの手紙二に結びつけられる最後のローマの状況の前に置きます。
3. 手紙は、パウロがテモテをエフェソに残してマケドニアへ向かったと示します。ここに示す伝統的な使徒言行録後の再構成は西暦62～64年ごろに置きます。
4. 批判的研究の多くは、語彙、教会の秩序、旅程を理由に、テモテへの手紙一をパウロの死後、パウロ伝承の中で書かれたものと見ます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第30章「牧会書簡：テモテへの手紙一」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/1-timothy>

改訂 v1.2.0-evidence.20260902.4 · CC BY 4.0 · PaulineLetters.com



考える別の読み方

批判的研究の多くは、語彙、教会の秩序、旅程を理由に、テモテへの手紙一をパウロの死後、パウロ伝承の中で書かれたものと見ます。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。